



小中学校において朝の読書を、全国で約2万6000校ほどが実施している、児童・生徒数では950万人を超えたという記事を見かけました。

朝の読書は、学校、学年によって違いはありますが、15分間ぐらい読みたい本を感想文などを書かせずにただ読むだけです。それで、子どもたちに読書の習慣を身に付けさせることが1つの目標になっています。

低学年では「読みなさい」というだけでは読むようにはなりません。少しずつ時間をかけて教師が読み聞かせをしたり、本を紹介したりしながら興味を持たせていきます。高学年になると子どもによって差はありますが、それぞれシリーズものを讀んだり歴史ものを讀んだりしています。また、お互いに讀んでいる本を見せ合う場面もよくあります。教師の讀んでいる本にも関心があり、どんな本を讀んでいるのか見に来る子もいます。子どもにも推薦できる本を讀みたいものです。学校でできることは、子どもたちが本を讀むきっかけづくりです。短い読

書時間では、十分とはいえませんが、15分間ぐらいの時間はあつという間です。じっくり時間をかけて読むのは、やはり家庭になります。

一方、子どもたちの家庭での過ごし方は、どうでしょうか。宿題がなければ、テレビやゲームに多くの時間を費やしていないでしょうか。それでは、あまりにも時間を無駄にしています。家庭でも読書する楽しさにも気づかせていくことも大切です。

まず、今まで読書習慣がなかった子には、本の楽しさ、おもしろさを感じさせることが第一歩です。それには、本人が興味を持つているものを把握しそれに関連する本を薦めてあげるのはどうでしょうか。動物関係、スポーツ関係の図書館などのコーナーにそれとなく連れ行つてあげるのも1つの方法です。

次に、本を讀む環境作りも大切なことです。休みの日など親が本を讀んでいれば子どもも気になり「何を讀んでるの」と聞いてきたり、見に来たりします。親が本を讀んでいる姿を見せることが一番効果がある方法かもしれません。家族で読書する時間が取れば理想的です。

新たに「家族みんなで同じ本を讀む」という「家読」というのがあり、多くの家庭で広がりつつあるそうです。

学校での朝の読書、さらに家庭での読書が広がり子どもたちが読書の楽しさを覚え、読書の習慣化が定着していって嬉しいう限りです。

第21回 「税を考える」図画コンクール

「都留市青空申告宣言の都市推進委員会」では、市内の小学校5年生を対象に「みんなの税金によってつくられた、あなたのまわりにあるものなく」をテーマに租税に関する図画作品を募集しました。厳正な審査の結果、310名の応募の中から優秀作品が次のとおり決定しました。

なお、優秀作品は大月税務署1階ロビに1年間展示されます。

大月税務署長賞

飯沼南帆(谷一小)

山梨県総合県税事務所長賞

土屋駿丞(禾一小)

都留市長賞

磯 玲子(谷一小)

都留市教育長賞

滝口勘太(禾一小)

都留市商工会長賞

後藤郁恵(谷一小)

東京地方税理士会大月支部長賞

清水夏紀(旭一小)

都留市商店連合会長賞

平井亨汰(谷二小)

都留機械金属工業協同組合理事長賞

小川夏葵(東桂小)

都留市青色申告宣言の都市推進委員長賞

柴田 梓(宝一小)

大月小売酒販組合都留支部長賞

宮澤愛海(附属小)

大月青色申告会都留支部長賞

和田朋也(禾二小)

入選

志村結芽(東桂小) 亀田舞衣(東桂小)

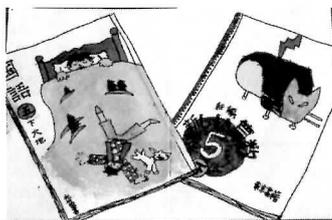
山本凜花(東桂小) 小俣綾香(谷一小)

小林嵩弥(谷二小) 八子晋之輔(禾一小)

平井潤也(禾一小) 中村大介(禾二小)

原田沙央梨(旭小) 武井 希(宝小)

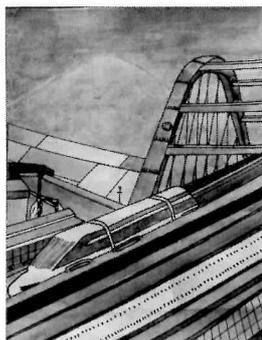
佐藤 楓(附属小)



「ぼくたちの教科書」
山梨県総合県税事務所長賞



「元気くん1号」
都留市長賞



「リニア」
大月税務署長賞